

少女探偵
有香

放課後の蜜戯

黄支亮

表紙イラスト：幸餅きなこ



試し読み版

当ファイルは、モバイル二次元ドリームにて配信された
『少女探偵有香 放課後の蜜戯』
に基づいて作成しております。

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。



少女探偵
有香

放課後の蜜戯

黄支亮

表紙 / 幸餅きなこ

登場人物紹介

Characters

ゆうか

有香

虹原高校に通う、17歳の少女。おじさまの依頼で放課後の音楽室の秘密を探る。

きょうこ

京子

美人音楽教師。天才ピアニスト黒瀬の個人指導にあたる。

くろせ

黒瀬

虹原高校に通う、天才ピアノ少年。

おじさまへ1 有香ゆうか

こんにちは。YELL—Ohのおじさま。小暮有香おぐらです。メール、頂きました。

まずは自己紹介からでしたね。私、小暮有香。虹原学園にじはらに通っています。性別は女性。学校では新聞部に所属しています。生徒会では副会長を務めているのですが、こちらは好きでやっているのではなく、他薦で仕方なく押しつけられたものなのです。私、できればそういう面倒なことはしたくないほうなのですが、どうしてもそういう状況になってしまつて……。言われると拒否できない、そういうタイプの人ついていますよね。なんとなく立場が悪いつついうか、押しつけられやすいタイプの人……。私も多分、そういうマイナスの電波を出している人間なんじゃないか、そんなふうに思っているのです。こういう悪い習性というか、癖はできれば今のうちに直しておきたいと思うのですが、私個人の力でどうこうできるものではないような気もするのです。なんといいか、悪い縁みたいなのつてありますでしょう……。

それはともかく、奨学金のことであるとか、寮費のことであるとか、いろいろと面倒を見ていただけるといふことなので本当に嬉しく思っています。その上、お小遣いももらえるなんてとても感謝しているのです。

実家のほうもいろいろとあつて、学園の学費、出るか出ないかって相当のピンチでした

から、おじさまからお話を頂いたときには、本当に感激をしました。学歴なんか関係ないって言う人、時々いますけれど、あんなの嘘だと思うんです。どんなものでもそうですけれど、ないよりはあったほうがいい。飾りだつてないよりはあったほうがましだと私は思うんです。いろいろと厳しい時代ですからね。実際、クラスの子の中にお父さんのお店が破綻して退学をしてしまった子が一人いるんです。その後、連絡も取れなくなつてしまったので、どうなったのかなーと心配はしているのですが。ああ、でも、人の心配をしている場合ではありませんね。明日は我が身。私もおじさまのご期待に添えるようにこれからも頑張つていこう、そのように思っています。

で、お仕事をするんでしたね。

おじさまに指示を頂いて、その指示の場所にいつてそこで起こる出来事を書く。書いたものはメールでおじさまの指定されたアドレスに送信。メールでの実況報告みたいなものです。大丈夫。多分ですけど、文章はそんなに苦手ではないんですよ。一応はこれでも新聞部員です。それでは、一旦、指定されたアドレスにメールを送信しますね。後の指示をお願いします。

おじさまへ2 有香

メールの返事、確かに頂きました。うちの学園の音楽室にいけばいいんですね？ 了解いたしました。すぐにこれから向かいます。

今の時間、音楽室では多分、ピアノのレッスンをしているはずですよ。持田先生もちだっていうとも美人の先生がいるんですよ。名前は京子きょうこ。みんな京子先生きょうこせんせいって呼んでいるんですよ。髪が長くて、色が白くて、胸の大きな若い女の先生なんです。同性の私から見ても本当に美人だなーっていうか、この人には勝てないなーって思ってしまう、そんな素敵な大人の女性なんです。実は、クラスの女の子にちよつとそっちの気の子、つまり、同性に強く惹かれるタイプの子がいて、その子が京子先生のことをいつも遠くから見ているんですよ。話し掛けるわけでもないし、なにかをするわけでもない。ただ、遠くからじっと見つめている。なんか見ていてかわいそうになってきます。京子先生は多分その子のことに気がついていないと思いますし、先生にはそちらの趣味はないはずですから。どんなに思っても報われない。忍ぶ恋というのとはとてもつらいものだと思います。

話がちよつとそれてしまいましたね。京子先生のことです。先生は、確かどこかの音楽大学でピアノを専攻していたはずだったと記憶しています。で、卒業をしてからうちの学園にやってきた。一昨年のことです。私が学園に入る前の年のことだったと思います。すごい美人の先生が来たっていうことで、そのときはとても大変だったそうです。生徒達が職員室にまで押しかけて、先生達が本当に整理券を配ったとか、そういうお話を聞いてい

ます。今は、そんなメチャクチャな騒動は起こらないですけれど。みんな慣れてしまったということもありますけれど、京子先生の側も仕事がお忙しくなってきたとからだと思えます。

実は、私の同級生にピアノの上手な男の子がいるんですよ。名前は黒瀬君くろせといいます。なんでも楽器を習ったという経験がなくて、お姉さんがピアノを習っているのを横で見ているのまにか弾き方を覚えていたという天才少年なんです。ちなみに黒瀬君のご両親は普通のサラリーマンをしていらつしやる、そんなことを聞いたことがあります。とんびが鷹を産むことってあるんですね。で、学園に入学したことをきっかけに、黒瀬君の指導を京子先生が個人的に始められたんです。最初はクラブ活動の延長みたいな感じだったんですけど、黒瀬君のピアノの成績がびつくりするぐらい伸びたことで、黒瀬君のご両親からも京子先生に本格的な指導のお願いがあったんだとか。その後、黒瀬君、学生のピアノコンクールに出てみたら、とてもいい成績が出てしまった。コンクールがあった去年の秋は学校のみんなも大興奮でしたよ。うちの学園、地元の新聞に載るなんてことほとんどなかったですからね。

おじさまへ3 有香

もう少し黒瀬君のお話をしましょうか。黒瀬君がコンクールでいい成績を取ったことはさつきも書いた通りです。頑張ればいい成績が取れるって知って喜んだのは黒瀬君よりもむしろ黒瀬君のご両親とうちの学園の先生達だったようです。特に先生達にしてみれば学園のいい宣伝になりますから。学園がすごいんじゃないかと、すごい生徒がたった一人だけいるってそれだけなんですけれど、みんなもう舞い上がってしまったんだと思います。京子先生の個人レッスンは今年の一月からそのままピアノ部に昇格。部費も制限無しの使用したい放題です。生徒会としては特例は作りたくないのですけれど、校長先生や理事長先生の強い後押しがありますからね。私達もあまり口を出すことはできない雰囲気なんです。

ちなみに、黒瀬君のいるピアノ部……と、いうか、黒瀬君だけしかないピアノ部は授業が終わるとすぐに練習開始となります。学校の門が閉まってしまるのが七時。練習は下校時刻ぎりぎりまで続き、時には、八時、九時まで練習が続くこともあるそうです。練習時間がオーバーしてしまつたときは門を衛衛さんに頼んで開けてもらうんだとか。土曜や日曜、祝日も学校が使えるときは学校で、学校が使えないときには京子先生の知っているスタジオで練習をしているとも聞いています。そんなにピアノばかりで嫌にならないかと私なんかは思うんですけど、練習をしているほうは別にそうでもないみたいなんです。大分前ですけれど、黒瀬君に、

「遊びにいきたくならないの？」

ああ、こっちは大丈夫です。鍵はかかってないです。いったい中の様子がどうなっているのか、これからちよつと確認してみますね。どんな練習をしているのか。虹原学園ピアノ部の秘密特訓の様子は……。

……。

……。

……。

声が……声が聞こえます。京子先生の声？　そうですね。京子先生の声です。黒瀬君の声は……聞こえませんか。なにを話しているのかしら？　ええと……。ガラス窓から覗いた様子をそのまま書きますね。部屋には西日が射し込んでいます。真ん中に大きなグラウンドピアノ。このピアノ、わざわざ黒瀬君のために学校が備品として急遽購入したものですよ。で、ピアノの向こうには黒板。黒瀬君と京子先生はピアノの前に並んで座っています。なにかひそひそと話をしています。ちよつと雰囲気……変な感じです。

おじさまへ！　5　有香

雰囲気を変な感じっていうのは……だから、先生と生徒っていう感じじゃないんです。長椅子に座っているんですけど、なんていうか、べつたりと寄り添っているっていう感



じなんです……。ええと、前から、こういう噂があることは聞いていたんです。つまり、

「京子先生と黒瀬君は実は関係があるんじゃないか」

ってことなんですけれど……。でも、誰もその現場を確認した人、いないですし、仮にいたとしても、学校が二人を処分することはないんじゃないかって、これは図書委員の高坂さんの意見なんですけれど。京子先生も黒瀬君もうちの学校の看板ですし……。とにかく、もう少し様子を見てみないといけないですよ。私の勘違いってこともありますし……。中の会話が聞ければいいんですけれど……。扉、開くかしら？

……。

……。

！

ああ、こっちの扉の鍵はかかってないですね。扉を少しだけ開けることができました。中の二人は……。こっちには気がついていないです。おじさま、やっぱり、二人の雰囲気、相当、怪しいです！

声が、京子先生の声が聞こえてきます。

「……少し、少し休みましょうか」

いつもの先生の声とはちよつと違う……。いつもの京子先生は優しいんですけれど、もう少し締めりがあるっていうか、芯が通っているんです。けれど、今の先生はお酒に酔っ払

ったようになっていゝんです。本当に酔つていゝ……わけじゃないと思ひます。京子先生、お酒が嫌いだって確か、そんなこと言つていたのを聞いたことがありますし。もう少し、二人の話聞いてみましょう。なにか分かるかもしれませぬ。

「黒瀬君……先生、ちよつと熱くなつてきてしまつて……。服を脱いででもいいかしら……」
 黒瀬君は頷いています。服を脱ぐつていうのは……上着を脱ぐつて、そういうことですよね……つて、京子先生、立ち上がつていきなりスカートのホックを外しています。ええと、まさか……。

「先生、腰のまわりが熱くて……」
 京子先生、本当にスカートを脱いでしまいました……。ここ、音楽室なんですよ！ 人がくるかもしれないのに、先生、お構いなしです。

おじさまへ！ 緊急 6 有香

「ああ、まだ締めつけがきついわ……。パンストのサイズが合つてないみたいで……」
 京子先生、今度はパンストに手をかけています！ 黒いストッキングに、その下に見えるのは同じ色をしたすごく小さなレースのショーツ。先生、色が白くて脚が長いので、びつくりするぐらいに色っぽく見えます。まさか……本当に音楽室で、しかも教え子の前で

ストッキングを脱いでしまうなんてこと、ないですよねえって……京子先生、ヒールを外してます。

「……コーチと生徒は一心同体。心も体も一緒にならないといいレッスンはできないわ」先生、いきなりストッキングを中に穿いていたショートツゴと脱いでしまいました！なんて破廉恥なことを！ ちよつと見ていられません……ああ、でも、ちゃんと見て報告をしないといけないんですよね。分かっています。おじさま。私、小暮有香、きちんと職責はまっとうします。

「ふう……これで、ようやく落ち着いた……やっぱりこのスタイルが一番ね」

京子先生の声が聞こえます。先生、腰の辺りにまで垂れているブラウスの裾を自分の手で捲り上げて自分の股間を黒瀬君のほうに見せています。ちよつと遠いのですが、私の目にも先生の股間の様子がよく見えます。毛が……大人の女の女であれば必ずあるはずの大事な部分の毛が一本もありません！ 剃り跡だけが青く残っています。黒瀬君はそれを見て……笑っています。

「綺麗だね……」

「レッスンを頑張ったらアソコの毛を剃らせてくれだなんて……。本当にいやらしい子……。でも、黒瀬君頑張ったものね。また頑張れば剃らせてあげるわ」

「本当？」

「本当よ」

西日が先生の股間をオレンジ色に光らせています。おじさま、やつぱり、先生と黒瀬君の間にただならぬ関係があるというのは本当だったみたいですよ！

「黒瀬君、とりあえず、今日は……まずは心と体の昂りを鎮めましょうね。私もあなたも少し熱くなつてしまっているから。それが済んだらレッスンを再開しましょう……」

「はい、先生……」

黒瀬君、興奮しています。声が震えているのが私にも分かります。先生のほうも声が上ずっています。黒瀬君もそうですけれど先生も自分のことを抑えるのに必死みたいです。

おじさまへ！ 緊急 7 有香

「ああ、まずはどうしましょうか……。黒瀬君、先生を……先生をどうしたいのかしら？なんでも好きなようにさせてあげる……」

京子先生、もう顔が真っ赤です。足元がおぼつかない、千鳥足というのでしょうか？音楽室で生徒と二人つきり、下半身は剥き出しの状態。教員としてあるまじき姿です。けれど、二人は自分達の秘密を私に見られているとは気がついていないようです。もう二人だけの世界に没頭してしまっていて……。

「せ、先生を縛りたい……」

「ああ……縛るのね……いいわ。好きなようになさい。あなたは私のもの。私はあなたのもの……。思うままにやりなさい……」

京子先生に誘われて、黒瀬君が立ち上がりまゝです。ピアノの裏から……ああ、縄跳びの縄ですね、黒瀬君、縄を取り出してきました。で、どうするのかしら……先生のことを、先生のことを床の上に寝かせて……ああ、縛っていきますね！先生の右の手首を右の足首に、左の手首を左の足首に。先生、あつという間に床の上でみつともない大開脚のポーズにさせられています！すぐく手際がいいところを見ると、多分、二人はずつとこういうことをやっていたんじゃないかしら？とにかく、京子先生、とてつもなくはしたない格好になっています！ひっくり返ったカエルのようにぶざまな格好……でも、先生、本当に嬉しそうに笑っています……。

「先生がこの格好大好きなのを……よく覚えていてくれたわね……嬉しいわ。好きな教えるの前で恥ずかしい格好にさせられるのって、本当に嬉しいものなのよ……」

京子先生の股間に西日が射し込んで……中心の部分がキラキラと輝いています。大事な部分から白っぽい液体がじゅくじゅくと溢れている……。本当にすごい量の汚汁が……。先生、相当前から興奮しきっていたようです。

「先生……綺麗だ……」

京子先生、完全に錯乱しています。言うことが支離滅裂になっています。で、黒瀬君は……。

「それ……」

ゆっくりと黒瀬君が動いていきます。前に前に、オチンチンを握ったまま、その先端を京子先生の大事なところに押し込んで……押し込んで……ああ！ぬるりつて感じて先生の大事なところに黒瀬君のオチンチンが入り込んでしまった！

「あ、あああーん……は、入って、入ってきたああッ」

京子先生はおかしくなってしまうていて、床の上で泣いています。すごく気持ちいいってことが見えているだけで分かります。

「ああ、すごい、ああ、いい、いい……気持ちいい……」

先生、床の上で顔を左右に激しく振って叫んでいます。で、黒瀬君のほうは……ゆっくりと腰を動かし始めます。

「はっ、はっ、はっ！」

私のところからは股を広げた先生とその上に乗っている黒瀬君の繋がっている部分が見えます。先生の大事な部分にオチンチンが確かに突き刺さっていて、激しく動いている！避妊具無しの直接の行為です。

ずぼっずぼっずぼっ！

掘り抜いたばかりの井戸から初めてのしぶきが出るようにして先生の大事なところから

変な音が聞こえてきます。黒瀬君のオチンチンがまるで井戸のポンプのようにして先生の穴の中をほじくり返して、汁を掻き出している……。先生はもう夢の中です。

おじさまへ！ 緊急 11 有香

「あ、ああッ！ だめええッ、そ、そんなに、動かないでええッ！ そ、そんなにされたら、す、すぐにイッ……イッて……イッてしまおうッ！」

先生は懇願していますけれど、黒瀬君は腰の動きを止めません。残酷なぐらいに腰をかくかくと前後に揺すって、先生の股間に杭打ちを続けています。

挿し込み、えぐり、腰を揺すってひねりを加えて引き抜く。挿し込み、えぐり、腰を揺すってひねりを加えて引き抜く。先生の大事なところはほとんど髷りものになっていきます！

「あッ！ あッ！ あッ！ あッ……ああーッ！」

先生のほうは私達に見せたことのないような表情になっています。怒ったような、泣いているような……唇は笑うようにして緩んでいます。すごく切なげで、でもとても幸せそうです。私もだんだん、体の芯が熱くなってしまつて……。黒瀬君は先生の上に乗つたまま腰を動かし続けています。とても滑らかな腰の動きです。多分、二人は何度もこう

いうことをしているんだと思います。そうでないとこんなにスムーズにはことが運ばないはずですから。だから、黒瀬君はきつと先生の弱点も知っているんだと思います。どこを責め立てれば先生が落ちてしまうか、どれぐらいの強さで腰を動かせば先生が感じるのか、黒瀬君は全部知っている。それはきつと先生がコーチした結果だと思います。先生は自身で自分を苦しめるための剣を鍛えてしまったんでしょう。で、その剣が先生を追い詰めている……。

「あ、あああッ！ ああッ！ だ、だめ、その、その、下から上に突き上げるの……ああ、いや、いやああッ！」

先生が泣き叫んでいます！ どうも先生は黒瀬君のオチンチンの先端で大事な部分の天井、おしっこの出る穴の裏を引っ掻くような奇妙な動きを嫌っているみたいです。でも、黒瀬君はその動きを絶対に止めません。先生はかわいそうなぐらいに苦しんでいますけれど、執拗に下から上への引っ掻きを続けています。

「ん、ん、ん、んああーッ！」

先生はもう、ぼろぼろの状態になっています。気持ちよすぎて自我が半分崩壊しかかっている……観客の私も……だんだん、おかしな具合になってきています。お……おじさまわ、私……おじさまに言われた通り、最後まで必ず、音楽室でなにが起こったかは報告するつもりです。けれど、私、今、自分に負けてしまいそうです……。どうしたらいいのか

……どうしたらいいのか考えることが難しくなってきました。だから、私のこのレポートのあと、このメールを送信したあとでいいですから、私にメールでどうすればいいのか、指示を……指示をください。だんだん、私も股の間が苦しくなってきました。す……。お願いです……。

おじさまへ！ 緊急 12 有香

……お、おじさま、メールを頂きました。すぐに返事をくださって、とても助かります……。その……はい。おじさまの言う通りに……し、しています……。四つん這いになって、音楽準備室にある予備の机の……予備の机の脚に……私の大事なところを押しつけて……。押しつけて、お尻を上下に振っています……。ほ、本当にいい気持ちです……。すぐ幸せで、熱くなつて……。いい気持ちなんです……。おじさまは下着を着けたままでって言うてくださいましたけれど……。じ、直のほうがいいかもと教えてくださったので……。し、下着を脱いで机の脚にアソコを、アソコを擦りつけています。ほ、本当にいい気持ち……。無理を……。む、無理をしなくていいからまず自分が楽になるようにって言うてくださいましたけれど……。ああ！ で、でも、なるべく頑張つて、できる限りのことをしてみます。きちん……きちんと指示に従います……。ああ！ 机の脚に大事なところを押しつけて

……かくかくさせるとして本当に気持ちいい……です……。ず、ずっとこうしていたい……です……。け、けれど、とにかく、先生達の様子を……報告しないと……。せ、先生と黒瀬君の……。う、動きが、だんだん激しくなっています……。黒瀬君、いつのまにか先生のブラウスのボタンを外して、ブラをずらすようにして先生の乳首を吸っています。こ、腰の動きも続いています。

くちゅ、ぐちゅ、くちゅ……。

ちよつと目を離れた間に、京子先生の大事などころは大変なことになっています。まるで洪水のような状態……。す、すごい、怖いぐらいの……。怖いぐらいの汁が、先生の大事なところから垂れ流れて……。

「あッ……あぐううッ……ああッ！ あ、ああッ！」

先生の手足に……。絡みついていた縄がいつのまにかほどけてしまっています……。激しく先生が暴れたせいでしょうか……。ああ……。せ、先生は、長い脚で黒瀬君の腰を……。挟み込むようにしてオチンチンの責め苦に耐えています……。

「あつ……。ああ、あはああッ！ いいッ、いいッ！」

先生は……。ご、号泣を、し、しています……。オチンチンが……。黒瀬君のオチンチンがすごい勢いで先生の股間をえぐっています……。せ、先生、本当に気持ちよさそうです。

ちう、ちう、ちうう……。

黒瀬君、残酷すぎます。唇で先生の乳首を吸いながら、腰は動かし続ける。先生の乳首がかちかちになってぴつと勃起しているのが私にも見えます……。

「も、もう駄目……も、もう駄目……、げ、限界、限界……、もう駄目……い、いきそう、い、いつてしまいそうッ！」

先生の裸足の指が固く握られています。本当に、もうぎりぎりのところなのでしょう。黒瀬君のオチンチンが乱暴に先生の大事なところをほじくり返して……先生のおっぱいがぶるぶると波打っています……。ああ、私も、なにかが……なにか熱いものが、アソコの奥から、奥から……なにかがじわじわと染み出してくるような、素敵な感覚が……ああッ！

おじさまへ！ 緊急！ 13 有香

「あ、あううッ……あッ……イ、イクイクイクッ！」

先生が甲高く泣いて……泣いています。挿し込まれたオチンチンが残酷に先生を攪拌しているのが……見えます。わ、私も……おじさまに言われた通りに腰をかくかくと上下に……上下に揺すって大事なところを机の角に擦りつけています……。す、すごい興奮して、ああ、すごい気持ちいい……です……。先生も、多分、し、し……幸せなんだと思います……う、うううッ……。

この続きは製品版をご購入の上、
お楽しみください。

編集・発行

株式会社キルタイムコミュニケーション

〒104-0041 東京都中央区新富1-3-7ヨドコウビル

TEL03-3555-3431 (販売) / FAX03-3551-1208

※本作品の全部あるいは一部を無断で複製・転載・配信・送信したり、ホームページ上に転載することを禁止します。本作品の内容を無断で改変、改ざん等行うことも禁止します。また、有償・無償にかかわらず本作品を第三者に譲渡することはできません。

©KILL TIME COMMUNICATION Printed in Japan

<http://ktcom.jp/>